

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年2月)	今回(平成15年5月)	
景況判断	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直しの動きが続いている	
鉱工業生産	このところ減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、集積回路が携帯電話向けなどは好調であるものの、ゲーム機やオーディオ向けが落ち込み横ばいとなっていることから、全体でもおおむね横ばいとなった。食料品・たばこは、清涼飲料などが増加し、全体でも増加した。化学は、プラスチック原料が減少し、全体でも大幅に減少した。一般機械は、半導体製造装置などの受注生産品が月によって増減があったものの、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、自動車の北米向け輸出が依然として好調なうえ、新車種の投入効果もあり増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	18.6	9.7	0.4	2.7	7.0
食料品・たばこ	10.8	1.3	2.5	3.8	3.4
化学	10.2	0.8	4.4	1.0	0.7
一般機械	10.2	3.2	0.7	0.3	2.6
輸送機械	9.5	2.5	1.3	1.1	182.3
鉱工業	100.0	2.1	0.1	0.0	0.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

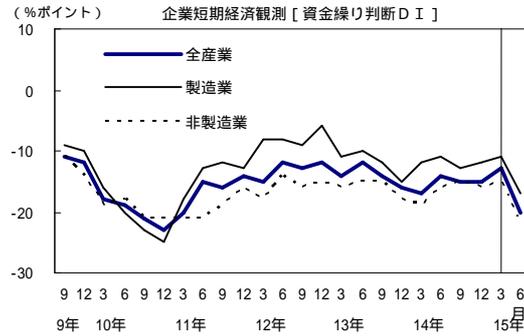
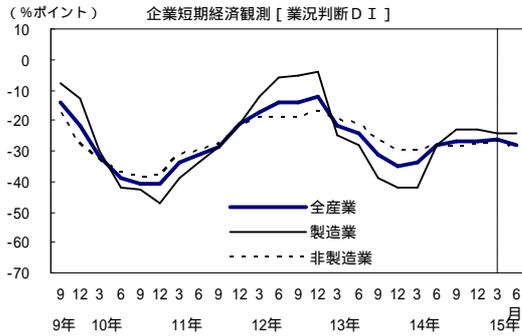
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 平成15年3月の九州は速報値。

2. 九州は平成7年基準(左目盛)、全国は平成12年基準(右目盛)。

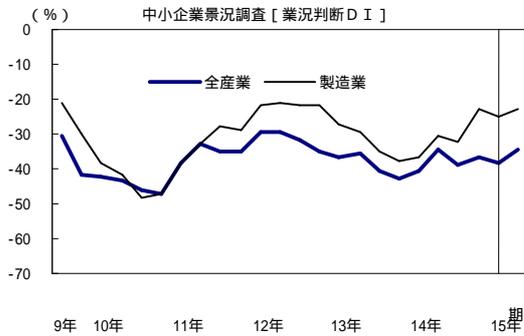
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「最近の受注の内容は、リストラ、合理化絡みといった事業縮小関係が多い(経営コンサルタント)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

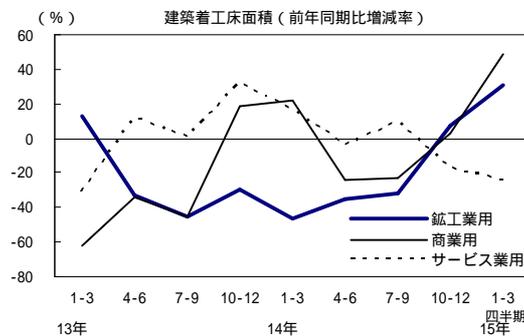
(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度計画
全産業	7.0 (2.3)	2.8
製造業	5.6 (8.6)	10.4
非製造業	7.5 (0.4)	8.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

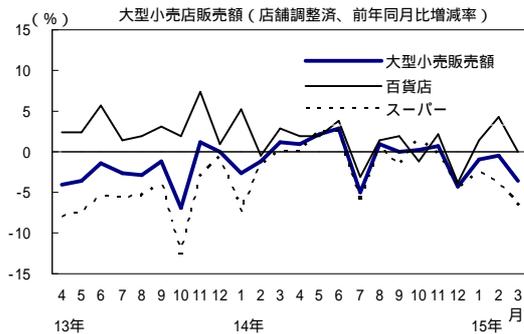
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は冬物クリアランスセール等が好調であり、2月は閉店セールの効果等により前年を上回った。3月は、気温が低めに推移したことで春物衣料が振わなかったが、食料品を中心とした催事等の効果により横ばいとなった。

スーパーは、大手地場スーパーの全店閉店の影響が一巡したことや、家庭用電気機械器具の売上が低下したことに加え、3月は気温が低めだったことで春物衣料が振わず、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「以前から高級ブランドと安価なものは動きが続いているが、中途半端に良いものが全く動かない。他店でも安いものが集中する催事に客が集まっている(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

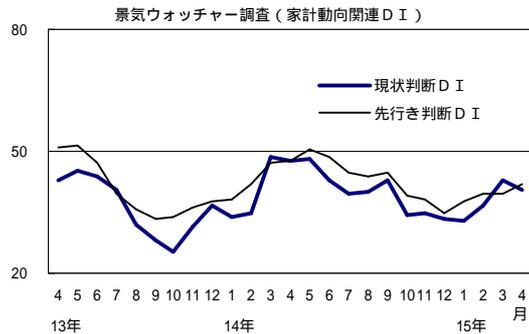
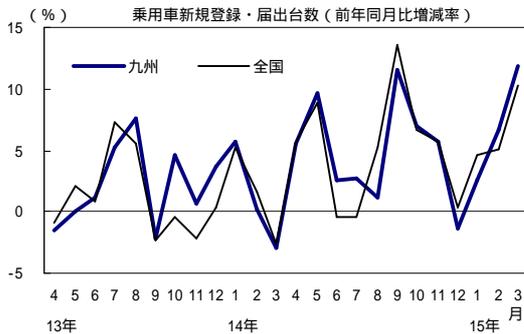


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	2.0	1.6	1.5	1.7
百貨店	2.5	0.2	1.4	1.7
スーパー	1.5	2.7	1.6	4.4
乗用車	5.6	5.4	3.7	7.9
景気ウォッチャー	46.2	40.7	34.3	37.5

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

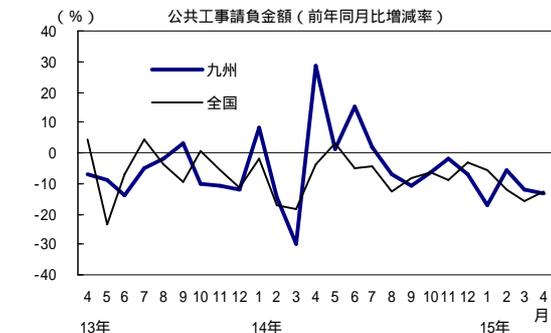
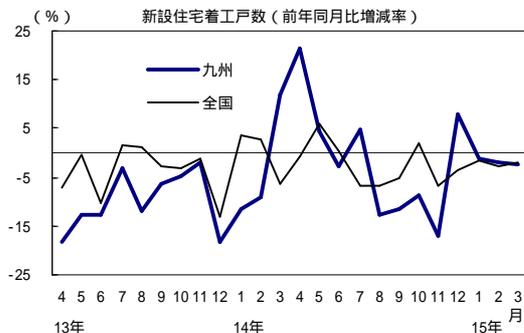
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では緩やかに減少している。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

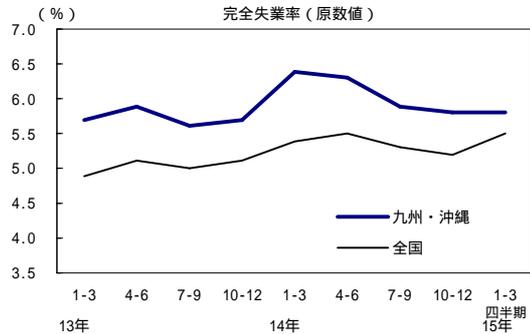
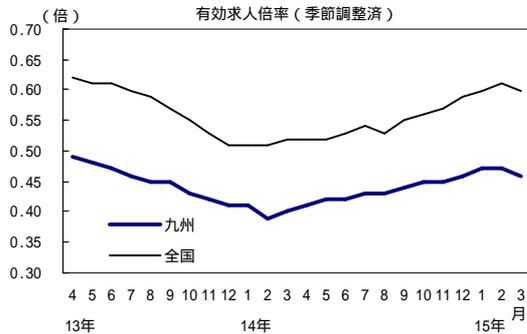


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

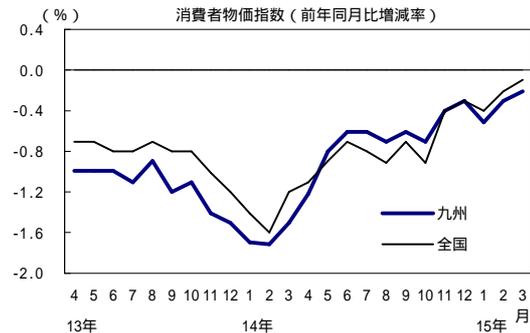
「最近の登録者の動きをみていると、他社登録が多く、他社でも派遣の終了者の登録が多く、派遣業界全体の仕事量が減っている(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	422	402	423	353	135
(前年比)	0.2	14.6	19.1	14.1	2.9
負債総額	3,178	1,326	2,821	3,369	363
(前年比)	192.6	31.6	43.0	140.1	84.5



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

・近隣に複合商業施設がオープンし、相乗効果を期待したが、来客数が1割増えたものの売上は前年キープがやっとで、客単価もやや下がった(百貨店)

<先行き>

・今まで不景気でずっと我慢してきた人たちの中でも、必要に迫られてきた人が、「設計をお願いしたい」とか、「家を建てたい」と言うようになっており、仕事が増えていく(設計事務所)

